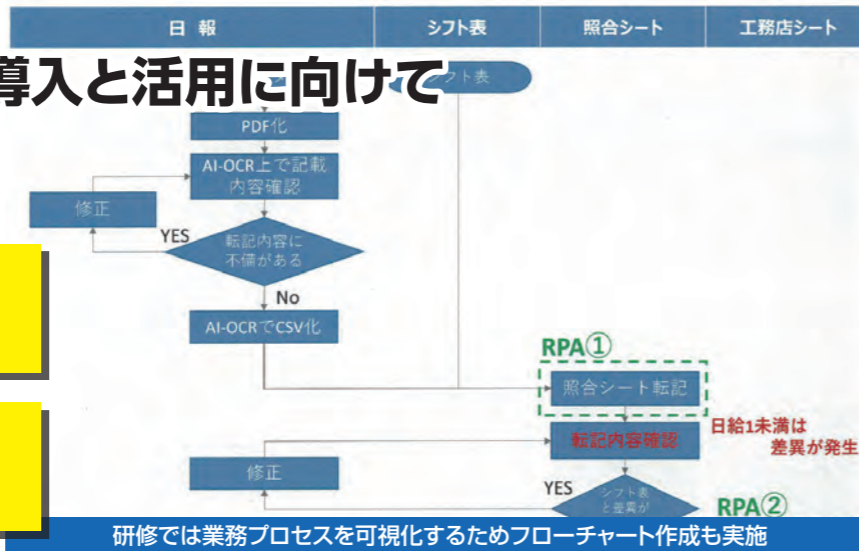


システムのスムーズな導入と活用に向けて デジタル人材を育成

利用者とシステム開発者との
橋渡し役が担えるようになった

システム障害への対処が容易になり
解決時間を短縮できた



研修では業務プロセスを可視化するためフローチャート作成も実施

従来の課題

- DX化の対応が難しい協力会社の書類作成を代行しており業務が滞っていた
- システム導入にあたって開発段階での意思疎通に対応できる人材の育成が急務であった

当社は、長年、型枠工事に携わってきた企業です。建築業界では、大手はデジタル化が進む一方、協力会社は従業員の高齢化や事務員がいないなどの理由でデジタル化に対応できない会社も増えている中、当社は業界に先駆けてシステムを導入するなど生産性向上に着手しています。

令和4年には、これまでExcelや紙ベースで行っていた請求書の管理を「kintone」へ移行し、これまでExcelで作成→確認→出力していたプロセスを、確認作業のみになるよう省力化しました。

令和5年に導入した「OCRツール(AIよみと〜)」は紙による出勤簿のデータ化に使用しており、「RPAツール(WinActor)」は複数のExcelファイルで管理している現場毎の収支を自動でまとめることができ、業務時間の大幅な削減に成功しています。

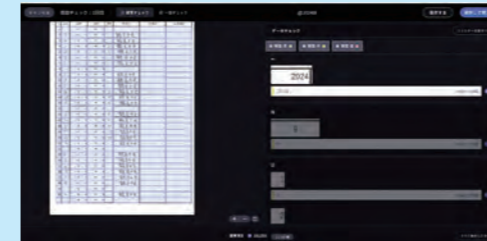
しかし、DX化への対応が難しい個人事業主などの書類作成を代行しているため、本来の事務作業が滞ることもあり、さらなる合理化が必要となっていました。

当社にはデジタルに特化した社員が1名しかおらず、システム導入を検討するにしても、外部業者に検討や活用の提案を頼っている状態でした。またそれまでのシステム導入でIT知識がある人間が少なく、開発段階での意思疎通に苦労したという経緯もあり、対応できる人材の育成が急務となっていました。

取組概要

- システム導入・活用に必要なIT知識を身につけるための研修を受講
- 業務効率化を図るため、基礎的なIT知識を習得し、先に導入したOCRツールやRPAツールの操作、簡単なシナリオの作成が行えるよう、5か月間にわたりRPAツールのベンダーであるNTT東日本に協力を仰

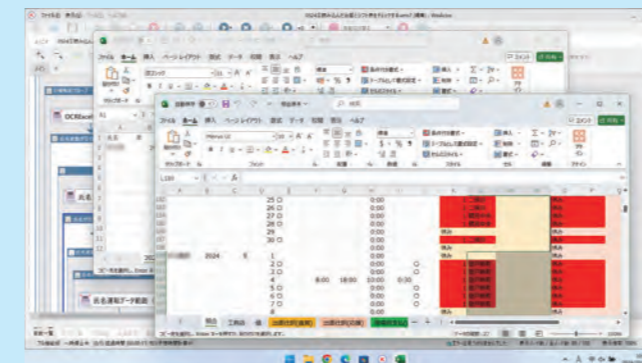
ぎ研修を実施しました。最初は用語の意味など基本的な部分からはじめていき、実際に導入したシステムを使いながらプログラムの仕組みについて理解を深めていきました。研修を実施するにあたり重視したことは「基本業務の可視化」です。そのためIT分野で一般的な業務プロセスを可視化するフローチャートの作り方なども研修内容に入れました。



OCRツール向けに手書きの出勤簿を読み取りやすいフォームに変更

実施効果

今回の研修でITの知識不足を補うことができ、入力エラーやシステムのバージョンアップなどに自分たちで対応できるようになり、OCRツールやRPAツールについても、基本的な知識を習得し、設定・実行・エラーの対処ができるようになりました。



導入したRPAツール システム障害が起こっても原因がわかるようになり対処もスムーズに

従来、IT知識のある1名に業務が集中しがちでしたが、IT知識がある社員が増えたため、少しずつ業務を分散して行えるようになっていました。

以前は、工事現場から質問を受けたときに何がわからないのかよく理解できないこともありましたが、研修を経てユーザーとベンダー両方の考え方がわかるようになり、現場からの意見・要望などをより的確に伝えることができるようになりました。

最初はこうした取組に関心が低かった社内の雰囲気、今回の取組をきっかけに変わってきたと感じています。例えば、OCRやRPAツールに興味を持つようになった社員から、これらのツールを使ったさらなる業務改善について提案を受けています。

そうした個別の要望になるべく対応していくためにはIT管理者と現場での利用者の意識のすりあわせが欠かせないため、使い手と開発者とのコーディネート機能を担えるようになったことは、今回の取組における大きな成果と感じています。

成功の決め手・秘訣

研修でITの基本的な知識習得の他、自社の基本業務の整理や見える化を行ったことで、現場の利用者からの要望への対応の可否について判断できるようになったこと。

社員の声

システム障害が起こると、従来はお手上げでしたが、「この部分で操作していたらエラーが生じた」と、エラーの発生場所がわかるようになり、原因を追跡調査することで、解決までのリードタイムを大幅に短縮できるようになりました。

今後の展開

今回の教育支援を受講し、社内のさらなる業務効率化に向け、それまで重複入力していた工事現場毎の収支管理を集約して行えないか検討を開始しました。

ITに関心を持つ社員も出てきたので、これを機に社員の基礎的なIT知識の向上も狙い、当初予定していたIT基礎知識の社内研修を前倒して行っていく予定です。

本社の事務部門は、経理、労務など守備範囲が広く、ITに特化した職種を設けることはできません。今回の取組を経て、ITの基礎知識とコミュニケーション能力をつけた社員を増やし、ベンダーと対話できる体制を整えることの大切さに改めて気付きましたので、その動きの強化を目指して参ります。

導入のポイント

システムの導入をスムーズにするために必要な大前提はデータ化です。当社の場合、kintoneに移行する前から表計算ソフトでのデータベースがあったため、紙ベースの管理からデジタル化への転換がしやすかったと考えています。

また、デジタル化を進める際、社内ですべて対応できる人間を育成するかがポイントになります。属人性を高くしてしまえば本末転倒であるため、少しでもIT知識がある人、興味がある人を逃さない視点も欠かせないと思います。

まず、「システム化できる、できない部分の洗い出しができる人材の育成から始めていくこと」、さらに「自動化により効果の高そうな業務を抽出すること」がスムーズなシステム導入につながっていくと考えております。



代表取締役専務 雪平 径延 経理担当 雪平 優子

企業情報
業種
建設業
事業内容
大工工事業(型枠工事)
創業
1957年9月
代表者
代表取締役社長 雪平 尚希
所在地
神奈川県川崎市中原区宮内4-4-3
従業員数
37名
企業紹介

建築・土木・環境などの分野で事業を展開し、安全でより高い技術を提供できるよう日々努めている。設立以来、小規模な工事から大規模な工事まで、数多くの型枠工事に携わっており、長い社歴で培った型枠の知識とお得意様とのつながりには自信を持つ。

昭和32年創業以来、神奈川県・東京を中心に受注型枠工事を行っています
YUKIHIRA 株式会社雪平工務店



<https://yukihira-koumuten.com/>